

平成 29 年度 第 2 回志布志市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成 29 年 11 月 20 日 (月)
開会 午後 2 時 00 分 閉会 午後 3 時 53 分
- 2 場 所 志布志市役所 本庁 2 階 庁議室
- 3 報 告
 - (1) 大学と連携した取組について
 - (2) コミュニティ・スクールの取組状況と今後について
 - (3) 小中一貫教育の取組状況と今後について
 - (4) 義務教育施設の整備状況について
- 4 協 議
 - (1) 全国学力・学習状況調査の結果分析について
 - (2) いじめ問題の現況と取組について
 - (3) 奨学金制度について (特に医療系・看護系への制度について)
- 5 出席者 (出席構成員)

志布志市長	本田修一
教育委員長	松原治美
教育委員	飯野直子
教育委員	津町千代子
教育委員	島津陽亮
教育長	和田幸一郎
(事務局)	
副市長	外山文弘
副市長	岡野 正
総務課長	武石裕二
総務課長補佐	黒石直也
総務課人事厚生係長	吉原直人
教育総務課長	徳田弘美
教育総務課長補佐	鎌下秀樹
学校教育課長	福田裕生

学校教育課参事兼指導係長	福留健之
学校教育課参事	吉永秀和
学校教育課参事	梶原 淳
学校教育課長補佐	江川一正
生涯学習課長	若松利広

5 会議の経過

午後2時00分 開会

○ 開会

【黒石総務課長補佐】 皆様、御起立ください。

ただいまから、平成29年度第2回志布志市総合教育会議を開催いたします。「一同礼」 御着席ください。

本日進行を務めさせていただきます総務課長補佐の黒石でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、御多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは早速ですが、会次第にそって進めさせていただきます。まず初めに、開会に当たりまして、本田修一市長が挨拶を申し上げます。

○ 市長あいさつ

【本田市長】 本日は、ご多用の中、第2回総合教育会議に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から教育行政の推進につきまして、御理解と御協力を頂いておりますことに、改めて厚くお礼申し上げます。

さて、本年度は6月に第1回目の総合教育会議を開催いたしまして、「コミュニティ・スクールの取組状況と今後について」、「小中一貫教育の取組状況と今後について」、「学力向上の取組について」、「道徳教育の取組について」、「全国学力・学習状況調査結果の公表の在り方について」の報告を受け、さらに「鹿児島大学と連携した取組について」、「志布志市における児童生徒への支援体制について」を議題とし、委員の皆様方と議論させて頂いたところでございます。

その後、本年度も「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されたところで、改めて学力向上に向けた取組みが急務な課題であると感じたところです。

本日は、「全国学力・学習状況調査」の結果についての分析や、いじめ問題の現況と取組、奨学金制度について、委員の皆様方と十分に意見交換を行い、より効果的な取組みにして行きたいと思っております。

また、児童生徒の学力の向上は勿論のこと、授業の改善、基本的生活習慣の確立、家庭の協力、教育環境の見直しなど、様々な取組みが相互に作用して、学校の教育力の向上が図られると思います。教育力の向上に向けた活発な取組みが、結果として児童生徒の学力の向上につながるものと考えております。

本日は皆様方の忌憚のない御意見いただき、実りある総合教育会議にさせていただきます事をお願い申し上げまして、私の挨拶といたします。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【黒石総務課長補佐】 それでは、会次第3 報告に入りたいと思います。

報告については、4つまとめて報告をお願いいたします。

【福田学校教育課長】 それでは、学校教育課関連の報告1から3につきましては、それぞれ担当が行います。

【吉永学校教育課参事】 まず最初に、大学と連携した取組についてです。大学の連携につきましては、大きく2つの柱で構成されています。1つ目が授業づくり、生徒指導等アドバイザーとしての大学教授等の活用で、2つ目が学生による学習支援サポートです。

1、2ページをご覧ください。

今年度から始まりました大学教授等の活用について、これまでの実績を列記しています。主に教科指導について記載してありますが、中には道徳教育や生徒指導についても記載しています。そのような先生方をアドバイザーとしてお招きして指導を受けています。

2ページの上から2つ目、岡村教授のものをご覧ください。こち

らは大学院の理工学部の方に先生に指導を行っていただきました。志布志小学校の5年生を対象としたC S T理科実験教室に来ていただき、授業を行っています。

次に、11月16日に安楽小学校において地区研究公開を行い、算数の授業の公開で、合計78名の教員等の参加となりました。算数の授業でしたが、I C Tタブレットを使った授業を行い、非常に好評でした。

次に、2ページの下の方に大学教官からのフィードバックとありますが、ただ授業を参観していただくだけではなく、授業に関して感じたこと、改善策や今後の方向性を大学の先生からフィードバックという形でいただいています。これらのポイントを、学校に還元し、次の授業に活かしてもらっています。授業参観には指導主事も参加しています。

次の3ページをご覧ください。3ページの(3)は、学生による学習支援サポートです。小学校、中学校を対象とした夏休みの学習教室、毎月第1、4土曜日に実施している志学教室や夏休み中に学生に参加してもらいました。今年が初めての実施です。募集をかけ、希望する学生に来てもらいましたが、学生のサポートを受け、子どもたちが目を輝かせながら勉強している姿が印象的でした。特に中学生に関しては年齢が近いこともあって、分からないところを指導してもらっている姿は微笑ましいものでした。

3ページの下の方に学生の感想ということで、今回参加した学生の感想を掲載しています。教師になりたい、いい経験をさせてもらったという感想や、教員になって志布志で勤務したいという学生もいました。

これらの取組は、学生にとって貴重な体験だけでなく、子どもたちにとっても、先生たちにとっても、良い取組だと思っています。3学期は、学生に2月を中心に志布志の方に宿泊を伴う形で来てもらい、出来れば2泊3日といった長い期間でサポートしてもらうよう計画しています。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 報告の2です。資料4ページをご覧ください。

コミュニティスクールの取組状況と今後について説明します。コミュニティスクールについては、平成28年度から取り組んでいます。今年度は新規の9校を含めて全部で12校が取り組んでおり、平成30年度には全校で設置を予定しています。

今年度は、6月に文科省の木村参事官をお招きして、学校運営協議会制度に関する講演会を開催しました。これについては、各学校の協議会委員、学校関係者と合計で100名を超える参加がありました。制度の必要性、役割について講話していただきました。

8月には、協議会委員の合同研修会を実施しました。ここでは、協議会の会議が活性化、活発化するように「熟議」の仕方について参加型研修を大分大学の梶原先生をお招きして実施したところです。非常に活発な意見交換が行われまして、各学校においては、それ以降の協議会が深まっていると思います。

9月には、大分で行われました「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に本市から合計18名で参加しました。これについては、最新の情報等を情報共有することができ、それぞれの学校に持ち帰って研修を実施してもらっています。

今後については、合同研修会を計画しています。これについては平成30年度から取組を予定している学校にも声をかけ、全小中学校が参加しての研修会を予定しています。

次年度に向けては、現在の委員、保護者には十分周知が進んでいるところですが、新規で取組む学校については、地域住民へ十分に周知されていないため、今後広報活動を活発にしていきたいと思えます。また、教育委員会事務局でも行っていく予定です。併せて4月から伊崎田小中学校が一貫教育校として開校しますが、一貫教育校における学校運営協議会の在り方についての先進校の事例を参考に、充実した協議会となるよう支援を行っていく予定です。

【梶原学校教育課参事】 続きまして、報告3となります。資料5ページをご覧ください。

小中一貫教育の取組状況と今後について報告します。

6月の第1回総合教育会議以降の取組として、1番目に取組状況

を掲載しています。第2回及び第3回の小中一貫教育推進協議会の中で「伊崎田学園」という名称、横断幕の設置について進めていきました。先日行われました第4回の小中一貫教育推進協議会の中においては、リーフレットの作成について具体的に協議を重ねました。次回の協議会の中で、具体的な内容を決定していくことと、より多くの部数を発行して校区全戸数配布、伊崎田保育園まで配布できるように進めています。

また、「新しい伊崎田学園に望むこと」として、自治会を含めアンケートを実施して活かしていくこと、併せて開校式、開校記念式典についても協議を行っています。教育課程については、行事での小中連携、小中一貫教育の在り方、授業における連携について話し合いを進めています。

その他について、学校、学園として一番望んでいることは地域との連携強化であり、学校で長寿会の方と一緒に活動できる場をいかにして見つけていくかということも意見として出てきています。その他については資料をご覧ください。

今後は、12月19日に第5回小中一貫教育推進協議会を予定しています。ここでは、大分大学の梶原先生の講話も予定しています。また、第6回小中一貫教育推進協議会を30年2月27日に予定しており、今年度の協議会としてはこれが最後となる予定です。

【徳田教育総務課長】 続きまして、報告4となります。資料6ページをご覧ください。義務教育施設の整備状況について報告します。義務教育施設については、それぞれの施設ごとに年次計画をたて、年次的に整備を行っているところです。具体的な整備状況は担当である福元施設係長から説明します。

【福元教育総務課施設係長】 まず、①校舎及び屋内運動場の耐震化改修について説明します。昭和56年以前に建築された校舎等について、すべて耐震化診断を行い、補強が必要と判定された施設の補強工事を行い、平成27年度に完了しました。また、耐震補強工事に併せて外壁落下防止、強化ガラス等への取替え等や非構造部材の耐震化を含む全

面改修を行い、さらに老朽化した校舎等のリフォームを併せて行っています。

資料の表については、平成 27 年度までの実績となります。

続いて、②校舎及び屋内運動場の老朽化改修について説明します。平成 27 年度までに補強工事及び全面改修工事が完了したことに伴い、耐震診断で耐震性有りとは診断されました老朽化した校舎等施設について、全面改修を国の補助を活用して行っています。資料 6 ページの下の表が 29 年度までの実績及び 30 年度以降の計画となっています。30 年度については、伊崎田小中一貫校が開校されることに伴い、両学校にある木造校舎の特別教室棟を取り壊し、両方の管理教室等から使える複合的な施設を整備する予定です。

31 年度以降については、既存の校舎の改修を予定しています。

資料 7 ページをご覧ください。③トイレ洋式化改修について説明します。平成 29 年度末時点で小学校全体の洋式化が 39.9%で、中学校全体の洋式化が 30.2%、小中学校合わせて 36.6%となっています。今後もトイレ棟の全面改修工事や、校舎内にありますトイレの洋式化率の低い学校から、優先的に洋式化改修工事を実施することによって、平成 33 年度末までに小中学校全体で 50%以上の洋式化率を達成することを目標として年次的に計画、整備していく予定です。

④各教室への扇風機の設置について説明します。平成 28 年度までに全ての普通教室については天井等への扇風機設置が完了しています。平成 29 年度からは特別教室への設置も行っています。今後も年次的に各学校の要望の高い教室から優先的に 1～2 室ずつ、天井等への設置を行い、全ての特別教室に扇風機が設置されるまで事業を行う予定です。

⑤各学校グラウンド改修について説明します。降雨時に水引きの悪いところや芝面と土面に大きな段差が生じているところが多いため、平成 27 年度から優先度の高い学校から段差解消、水勾配の改善を目的とした表土の入替え工事を実施しています。今後も年次的に工事を行い、全ての学校の改修を行う計画です。また、それに併せて周辺施設の整備や遊具の改修を行い、中学校においてはフェンス

改修など屋外環境の改善を図っています。資料7ページの表は実績及び30年度以降の計画となっています。

⑥プール周辺環境の整備について説明します。プール周辺のコンクリート等の除草対策がされていないところに蛇や害虫が発生し、児童生徒に危険が及ぶため、平成27年度から張りコンクリート及び遮熱塗装を行っています。今後も優先度の高い学校を優先して年次的に工事を行うことで、安全を確保していく計画です。

⑦各小学校遊具設備の改修について説明します。遊具施設について老朽化が進んでいるため、平成27年度に各小学校の全ての遊具について調査を行い、優先度の高いものから溶接補強及び塗装改修を行っています。今後も年次的に改修を行い、全ての遊具の改修を行う予定です。なお、老朽化の著しいもの、現在安全基準に適さないものについては撤去を行い、必要であれば新たな遊具の設置も検討していく計画です。

今後も毎年の学校要望を精査し必要な施設整備を行いながら、各施設の年次的な整備、改修計画に基づく施設整備を行っていく予定です。

【黒石総務課長補佐】 報告については、まとめて報告いただきましたが、何か質問はありませんか。

【本田市長】 資料6ページですが、老朽化改修箇所について31年度は多いが、32年度は少ないのは、これは何故ですか。

【福元教育総務課施設係長】 30年度と31年度については、当初の計画では既存の校舎等の全面改修を予定していましたが、30年度に伊崎田小中学校の特別教室棟の建設を行うためには、毎年実施している改修工事と同程度の予算が必要となることから、30年度は既存の校舎等の全面工事は送りまして、伊崎田小中学校の特別教室のみとなっています。

【本田市長】 31年度以降は順送りになっているということですか。

【福元教育総務課施設係長】 当初の 30 年度の整備予定は、森山小学校、潤ヶ野小学校、志布志中学校の校舎の改修が予定されていましたが、31 年度分と併せて実施することになりました。32 年度以降については当初の計画どおり実施する予定です。

【本田市長】 31 年度はこれだけ実施する予定ですか。

【福元教育総務課施設係長】 件数は多いですが、校舎の規模から考えますとある程度可能ではないかと思います。

【松原教育委員長】 資料 7 ページの 1 番上にトイレ洋式化改修とあり、洋式化率というのはいろいろ率の捉え方があると思いますが、これは不自由だから洋式化にしていこうという流れだと考えると、年次的に整備していくという問題ではないのかなと思います。とりあえず不自由な子どもがいないことをベストとして、まずそこを改善していくもので、年次的整備であるために我慢してくださいというものではないと思います。予算を伴うものですので、簡単にいくものではないと思いますが、希望としては早急に誰も不自由のない学校を作って、それから次を考えてもらえればと思います。

【徳田教育総務課長】 今ご意見をいただきましたが、そのような考え方で整備を進めていきたいと考えていますが、予算との関係があります。

今回策定されました第 2 次総合振興計画の中でも 33 年度までには少なくとも 50%を達成したいという考え方で年次的整備を行っています。出来れば早く整備をしたいと考えています。

【本田市長】 小中学校のトイレ洋式化については、私が市長になった頃は 0%でした。何故 0%なのか不思議でした。そのため、少しずつでも洋式化を進めてきて、現在の状況になったところです。

現状として、例えば和式のトイレの使用頻度はわかるものですか。調査していますか。

【福元教育総務課施設係長】 はっきりとした数字は把握していませんが、小学校に関しては圧倒的に洋式の方が使用頻度が高く、中学校に関しては、他人が座ったところに座りたくないという意見などもあって、頻度については半分くらいと考えています。そのため、洋式化率については小学校を60%程度、中学校を45%程度、合計で50%を目標にしています。

各学校で見ましても、児童生徒の割合などを確認し、ただ単純に50%というわけではなく、1台の便器を何人の生徒が使用するのかを割り出して、1台の便器を使用する人数が多い学校をまず優先的に整備しています。

また、トイレを洋式化するためには和式よりもスペースが必要となることが前提でしたが、現在、三角コーナーのところに三角形のタンクを設置することで、同じスペースで洋式化が図れるという省スペースタイプのもも出てきていますので、なるべく既存のスペースで洋式化をより安い金額で整備するよう努力しています。

【本田市長】 和式は使用されていますか。

【福元教育総務課施設係長】 使用頻度は全くゼロではありません。

【松原教育委員長】 コミュニティ・スクールについて、資料4ページの8月28日の会議とその前の6月22日にもオブザーバーとして参加させていただきましたが、コミュニティ・スクールを始めようという学校の勢いが、この会議でついたように思います。

先生の進め方も素晴らしいと思いながら、それぞれ学校単位で小グループになって、うちの学校では何が出来るか、何からすべきかなど深みがあり、この会議から勢いが出てきたかなと、素晴らしい企画だなと感じました。

【飯野教育委員】 私も意見が活発に出て、すごく良かったと思います。

【黒石総務課長補佐】 他に意見はございませんか。なければ、続きまして、会次第

4 協議に入りたいと思います。協議の進行については、総合教育会議設置要領第4条第4項の規定に基づき、市長が務めるようになっていきますので、本田市長よろしく願いいたします。

【本田市長】 それでは、協議(1)の全国学力・学習状況調査の結果分析について説明をお願いします。

【福田学校教育課長】 それでは、協議(1)の全国学力・学習状況調査の結果分析について説明します。資料は8ページからとなります。

説明については、担当の吉永が行います。

【吉永学校教育課参事】 平成29年度全国学力・学習状況調査については、平成29年4月18日に実施され、小学校6年生、中学校3年生が対象でした。調査内容は、国語、算数・数学の知識を問うA問題と、活用力を問うB問題、児童・生徒質問紙です。

結果については、小学校が表(1)、中学校が表(2)です。表については平均正答率が表示されており、数値は四捨五入した整数値となっています。設問数は小学校の国語のA問題であれば15問ありましたというもので、一問率は一問正答するごとに正答率が何%変わるというもので、A問題では一問回答するごとに7%変わるというものです。B問題は活用問題で、主に自分の考えを書くものです。小学校の国語に関しては9問で、一問率は11%です。市の結果、県、全国の結果、県との差、全国との差が表示されています。

小学校においては、全国との差が国語のA問題がマイナス3、B問題がマイナス8、算数のA問題がマイナス7、B問題がマイナス8という状況です。

中学校においても、全国との差が国語のA問題がマイナス5、B問題がマイナス7、数学のA問題がマイナス7、B問題がマイナス8という状況です。

資料8ページの下の表をご覧ください。この結果を受けて、いろいろ分析しましたが、主な分析を説明します。

小学校の※印をご覧ください。全校体制で補充指導を行った国語

4校、算数2校については大きな伸びが見られました。このような伸びがあった学校の取組について、管理職研修会で事例紹介を行っています。

また、小学校については、全児童があと1問正解すると、県、全国を上回る状況になりますが、全員がということになると難しい状況になりますので、そこを先生方にしっかり指導してもらいたいと考えています。

中学校の※印をご覧ください。国語AB、数学ABともに県・全国平均を下回っていますが、昨年の本市の平均正答率より伸びが見られます。数学Aについては県との差を3ポイント縮めています。今の数学の指導等についても、各学校で推進して、授業改善を図る必要があります。資料8ページの下の方にまとめてみました。本市の目標である県以上の平均正答率は達成できていません。その原因として小中学校のB問題、自分の考えを書く問題の正答率が大きく落ち込んでいますので、資料と関連付けた根拠を書く問題が書けていません。説明をする学びも設けないといけません。それと主体的で対話的な学習も求められています。具体的な問題として $5 \div 9$ を分数で表しなさいという問題がありましたが、この問題があまり出来ていません。活用力の向上だけでなく、基礎・基本を確実に身に付けられるよう個に応じて補充する必要があります。

資料9、10ページをご覧ください。こちらは全国学力・学習状況調査結果を市報として掲載した際に作成した資料です。志布志市の子どもたちの学力結果をQ2で掲載しています。正答率の比較も掲載しています。

Q3には過去の結果と比べてどう変化しているかを掲載しています。小学校の推移については、国語Aはほぼ横ばいですが、国語B、算数ABについては下がっている状況です。中学校の推移については、先ほども言いましたように若干差が縮まっています。特に数学では差が縮まっています。

Q4をご覧ください。この質問紙というものがあり、児童生徒がどういう取組をしているかというもので、全国と比較して、志布志の子どもたちは「難しいことにも失敗を恐れずに挑戦する」「人の役

に立つ人間になりたい」という願いを持っていますが、一方では「自分にはよいところが多い」という自己肯定感が低い面もあります。ですので、学校生活や家庭生活の様々な場面で子どもたちのいいところを伸ばしてあげるような取組を地域社会も含めて推進していく必要があると思います。また、学習はよく分かっていると回答していますが、頭をひねるような負荷がある学習問題を提示することも必要かと思ひますし、新聞の活用も必要であると思ひれます。

10 ページをご覧ください。さまざまな学力との関係ということで主なものを3つあげています。朝食との関係、小学校では話し合い活動との関係、中学校では発表する機会との関係、復習との関係を掲載しています。このようなことを家庭生活、学校生活でもしっかり見つけ、各学校でもそれぞれの課題と捉えて、市教育委員会としては全体を啓発していく必要があると考えています。

Q8、9については、次のページで説明したいと思ひます。

資料11 ページをご覧ください。本市の児童生徒の学力の現状を捉えて5つの方策を考えています。

1つ目は、教師の指導力を高めるための方策として指導主事による授業づくりサポートを進めていきます。学び合いの位置付け、発問の工夫や考えの記述などがしっかりとできるように指導主事が研究授業の際に指導を行います。授業力の高い教師の授業を共有するために授業参観や実践発表などを見ていきたいと考えています。具体的な方法としては教師が参加している志学塾を活用します。9月9日には特別の教科、道徳の指導法について、鹿児島市の道徳授業に長けた先生を招いて模擬授業を行いました。効果的な発問や学び合わせ方などを学び、好評を得ました。12月9日には来年度から始まります外国語活動と外国語科の指導法について、授業力に長けた先生を招いて実施したいと考えています。

個の理解状況に応じた指導の工夫ということで、基礎力が定着していないような児童を引き上げるような指導を考えていく必要があるかと思ひます。

鹿児島大学教授等及び学生の活用については、先ほど説明しましたところですが、アドバイスにより授業が変わってきたという話を聞

きます。

授業を通じた校内研修の充実及び校外研修会への意図的・計画的参加も大切です。教師の中にはどうしても話のみとなり、子どもたちが考える時間がない授業があるという反省もありますので、教師がどのような課題を持っているか、ここを改善したら良いかということが大隅教育事務所が出しているグラフ作成ソフトの活用により実施していきたいと考えています。

県総合教育センターでの研修講座が毎年実施されていますが、市内の教師に積極的参加を呼びかけています。平成27年度は64人、平成28年度は88人、平成29年度は募集150人のうち102人が受講しています。

移動講座も実施していきます。志布志中学校でICT活用の講座、森山小学校では複式指導の講座を実施しました。

2つ目は、児童生徒の学力を高めるための方策として、まず、学習規律、基本的な生活習慣の確立を行うため、「そろえる」の習慣化、生活記録表等の活用や志アップ子育て手帳などによる親の意識啓発を実施していきます。

道徳心の育成のため、学ぶことへの意欲付けを行っていきます。

大隅教育事務所が出しています「今週の一問」について、解説まで含めた取組を実施していく予定です。

志学教室の充実ということで、志学教室については現段階で171人の生徒が受講しています。平成27年度と比較しますと約3倍の受講者数となっています。たくさんの生徒が来ていますので、今後も充実させていきたいと思えます。

夏休み学習教室も充実させていきたいと考えています。

3つ目は、家庭や地域との連携を強化するための方策として、各中学校区での9年間を見通した家庭学習の手引きの見直し、保護者等への啓発や少年団活動、部活動の適正化を図っていきます。

4つ目は、管理職の意識改革と実行力を高めるための方策として、まず管理職の意識改革ということで、教師の指導力を高めるために管理職は大きな役割を担っていると考えています。そこで教育委員による校長面談や管理職研修会、校長研修会などでさまざまな学力

向上の実践例を公表してもらっています。その中で学んだ実践例をさらに各学校で実践例として拡げていきたいと思えます。先日行われた安楽小学校でのものは正にその具体例です。教頭研修会においても、教頭としての仕掛けについて協議しています。1月の鹿児島定着度調査は期待したいと思えます。

5つ目は、教育委員会の施策実行力・浸透度の向上のための方策として、鹿児島大学教育学部との連携を基に4人の大学の先生方の論文を参考にしながら、教育委員会としてはどのように進めていくか方策を考えていきます。

【福田学校教育課長】 資料12ページをご覧ください。平成28年度から志布志市確かな学力向上第1ステージということで、12ページの資料を示していますが、今年度において加筆・挿入した部分がありますので、説明します。この資料の見方としては以前から説明していますが、資料の左側の茶色の部分が主に学校教育課担当での取組、右側の青色の部分が生涯学習課担当での取組と捉えて見てください。

学校教育課関係でいきますと、これまでの取組をさらに強化させることと先ほど吉永が説明しました左側の上から2番目のかっこ書きの中の「新」と書いてある「鹿児島大学の知的・人的資源の活用」が、これが本年度新たに挿入し取組を始めているものです。その下に「学力向上アクションプランの作成」「幼保小連携・小中連携の強化」「キャリア教育の推進」「地域人材の積極的活用」は生涯学習課と連携して行っているものです。「ICTの積極的活用」「部活動の適正化」など多くの取組をしているところですが、先ほど担当も言いましたが、中々数値結果として上げられていない現状もあります。厳しく受け止めているところです。根本的なところは教師一人ひとりの授業力をいかに高めていくか、そのためには各学校の校長、教頭の教員への指導力、危機感をどう高めるかということの本年度は特に強化していく形で4月から実施をしているところです。先ほどもありましたが、9月第1週には本日出席していただいている教育委員の方々に各校長と面談していただき、実際の校長の言葉からそれぞれの学校の取組を感じ取っていただき、そして、市民の代表で

ある教育委員の方々が校長に対して質問を投げかけ、提言してくださいました。現在、それらを基にそれぞれの学校が昨年までにない強力な取組が進められていると現時点で思っています。

【松原教育委員長】 教育委員による校長面談ですが、学力結果を見た時にどうこのままではいけないと思い、私たちに何が出来るかということで面談を計画してもらいました。個別に先生方と15～20分ずつ、1校ずつ面談を行いました。何故かという、以前に学校訪問をした際に温度差があると感じたからです。校長先生に直接面談すると、勢い押されるくらいのエネルギーを持って話をされる校長もいれば、何となく話をされて、誰がやるんだろうという感じの校長もいて、学校の運営において結果として出てくると思い面談をお願いして、一人ひとりに「先生、この数字を受けてどう思いますか。」「何をまずしますか。」と話をすると、言葉に詰まる先生もいたり、いろいろ並び立てて説明する先生もいたり、こうやりますと言う先生もいました。そこで私たちは「そろえる」ですよ。「そろえる」というのは、みんな同じ学校、市内21校が同じようにそろわないと平均には届かないですよという話をしきりに教育委員でしたところです。そして、例えば校長室の前に大きく全国何々といったプラカードを掲げるくらいの思いがあって初めて人に通じるのではないですかといったことを話したところです。その後、話をするといろいろな仕掛けがあって、今熟してきているところかと思いますが、結構先生方の話も歯切れが良くなっていると思うし、学校の取組を見せてもらっても、ここまできましたよ、ここまできてますよとか、学校を見てくださいとか、授業を見てくださいという先生も出てきています。こう考えると面談も効果があったのかなと思っています。これを次回から同じようにどのタイミングで行うかが問題だと思いますが、年に1回くらいはやりたいと思っています。結果が出てからではなくて、途中でどこまで持っていくのというタイミングで実施したいと考えているところです。

【島津教育委員】 私も面談の時に校長先生のばらつきがあるなど感じまして、民

間であれば、この結果で処分が下るよというところまで伝えてしまいました。伝えた後に思ったことですが、結果が出た後にいろいろ言っても、逆にこればかりに気持ちがいってしまうのも困るなどという反省もあって、途中できちんと原因追求をして出来るかどうかをみんなで確認していかないといけないと思っています。志布志市もいろいろ取組をしていると思いますが、その取組にしっかり校長先生が向き合っていていただき、生徒や先生方にフィードバックしてもらえれば、確実に結果というものが見えてくるのではと思います。

【飯野教育委員】 この校長面談をした後に、11月に教育週間があり、研究公開講座が原田小学校、安楽小学校でありましたが、それを見ますと、子どもと先生が楽しく授業をしていると感じ、子どもたちの興味を引き出して授業に臨んでいていると感じました。この授業は楽しいんだろうなという授業を行っているのが印象的でした。

安楽小学校では、タブレットを有効に使われて、4年生でしたが、実際の写真を撮って、実際の天井までの高さを求めるという授業で、興味を持って、答えが出せる喜びを感じることができる授業だなと感じました。

校長面談を受けて、検査結果を受けてのことかもしれませんが、授業に子どもたちが一生懸命になれるということが大事だと思いました。

【津町教育委員】 校長先生のカラーもあるとは思いますが、最初の頃より面談を受けた後の方が学校が生き生きしているような気がしました。子どもたちが集中して授業を聞くのも先生たちの熱意に比例すると思うので、良い方向に進んでいると感じました。

【和田教育長】 総体的に言うと、管理職のリーダーシップ、教員の指導力、家庭教育の充実というものが総合的に絡み合って結果が出てくると思いますが、私たちは管理職に対して研修会や学校訪問など具体的に指導できる機会がありますが、教育委員の方々は学校訪問に行きますが、具体的な指導は出来ないということもあって、今回の学力

検査の結果を受けて、校長と直に関わりたい、機会を持ちたいという教育委員自らの申し出があつて、今度は1対1で学校と教育委員という場面の設定で、検査結果が出た後すぐに実施しました。私たちも危機感をずっと持って、校長に指導してきましたが、一市民の立場でこういう危機感を持っている校長先生に伝わったと思います。そういう意味では有り難い提言をそれぞれの教育委員がしていただいたと思っています。いい取組の一つであつたと思っています。教育委員の方々にはいろいろな機会に直接話をするなどいろいろな動きをしてもらっていると感じています。感謝の気持ちでいっぱいです。

【本田市長】

教育長、課長、指導主事の方と話す際には、学力向上を一番に取り組んで欲しいと伝えて、実践をしていただき、成果を出していただきたいとお願いしているところです。

資料8ページをご覧ください。8ページの下の表の中の上から3行目に「補充指導した国語4校、算数2校」とありますが、引き上げをきちんとしてくださいとお願いしましたよね。わかっていることなのに何故きちんと取り組んでいないのですか。結局6校しか取り組んでいないですよね。重複しているのだから4校しか取り組んでいませんよね。このような取組状況だから、なかなか結果が出ないのではないですか。

資料9ページをご覧ください。Q3のところですが、小学校においては、平成28年度はマイナス2、マイナス5、マイナス3、マイナス3と良くなったと思っていました。平成29年度はマイナス8、マイナス7と悪くなっています。中学校においては変わっていません。志布志市は学力状況調査の結果が悪いということは、伸びしろがあるということで、伸びしろがいっぱいあるから上げてくださいということですよ。良くなるためにまず補充指導を行ってください。やってもらえますか。やってもらえるよう教育委員会は指導できますか。出来ないのであれば、私の方で各学校に行つて指導しなければなりません。

それから、数字として手元にはないですが、先生たちは学校を異

動されますが、異動して平均何年、その学校に在籍していますか。

管理職の歓送迎会に行きますが、2～3年ですよ。これも驚きですよ。2～3年で成果が出せますか。ましてや一般の教員は5～6年、長くて8年ですかね。全員8年くらい在籍して、責任を取ってくださいと言いたい。自分が教えた子どもたちに。責任取らずに異動していくわけですから、このような状況になってしまうのではと思っています。変わらない、成果が出ないという状況をどうすれば解消できるのかなと思います。皆さんに考えていただきたい。私はただ市長としての感想、意見を述べるだけです。実践するのはあなた方です。私の気持ちはそういったところです。私の原因についての観点はそういったところだと理解してください。

【本田市長】 それでは、次の協議の説明をお願いします。

【福田学校教育課長】 それでは、協議(2) いじめ問題の現況と取組について担当が説明します。

【梶原学校教育課参事】 資料13ページをご覧ください。いじめ問題の現況と取組について説明します。

1番目にいじめ問題の現況について、平成29年度のいじめ報告件数を掲載しています。小学校は10月現在で10件、中学校は5件報告が挙がってきています。その具体的中身については、表の(2)のところに掲載しています。嫌なことを言った、したりした、たたいた、蹴った、仲間はずれをした等いろいろなものが挙がってきています。

2番目にいじめ問題への取組として、2の(1) 志布志市いじめ防止基本方針を改訂しています。これに伴い、いじめ防止基本方針を全学校改訂しています。市のホームページにも既に公開しています。改訂点については、大きく2つです。まず1つ目は、いじめの定義の改訂です。けんかやふざけ合いであっても、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する旨を追記しています。

2つ目は、いじめ解消の定義の改訂です。①いじめに係る行為が

やんでいること。これは少なくとも3か月止んでいる状態が継続していることです。②被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないことです。この①、②がともにあって初めて、いじめの解消となると改訂しています。

続いて、いじめの認知についてですが、志布志市の件数については年々少なくなっています。これは今までの学校の取組の成果と捉えることが出来ますが、しかしながら、市の方針としては1件でも多く発見してくださいとしており、それを迅速かつ丁寧に解消していくことが学校の一番の信頼につながるものですので、もちろんいじめは良くないという指導は行ってもらいますが、その裏で1件でも多く探す、見つけるという指導を行っています。

また、いじめを考える週間として毎学期の初めに全学校、全学級において、いじめ問題に関する授業を行っています。その中で具体的にいじめは絶対許されない行為であること等をしっかり指導していくようにしています。

いじめ問題等の実態調査を確実に実施することを指導しています。これは少なくとも月に1回を基準として、学校によっては週に1回実施している学校もあります。また、いじめはしていけないという教育を行いますが、それだけでなく、いじめがもしあった場合、いじめを見かけたらどういう風にすべきかなど道徳の時間を活用した授業の実施、また、スマートフォン、インターネット接続機器など情報モラルに関する指導も行っています。

その他、児童生徒の主体的な活動として、現在、志布志市で行っています魅力ある学校づくり事業の中で子どもたちが学校を楽しく感じられるような取組を行うことなどにより、ここ1年間の成果として件数に表れていると感じているところです。

【本田市長】 何か意見はありませんか。

【松原教育委員長】 いじめは確かに減ってきていると思います。これまでの取組とここに概要が書いてありますが、学校にはこまめに挙げてもらっています。目配りが出来ていると思います。ただ、小学校の低学年で

多くなっています。これは文科省の結果も同じで、中学校、高校では横ばいなのに、小学校は右肩上がりです。それは、子どもたち自身がスマートフォンなどで切れやすくなっているなどいろいろな要因が考えられますが、そこから不登校につながっています。今志布志でもほとんど出てこない生徒がいます。このような生徒は何人もいます。この生徒たちが何をやっているかというスマホやゲームなど、依存症に近い状態もあるのではないかと気になっています。診療を受けたら間違いなく依存症と診断されるかもしれません。このような生徒たちは立ち直るまでに時間がかかるかもしれません。1日2時間も3時間もやっていると依存症になることが心配されます。9時オフとしきりにPTAでやっていると、9時オフにして何時に寝ましょう、早寝してすっきりした気持ちで学校に行きましょう、勉強しましょうと問いかけているはずですが、これがどこまで守られているか、地域、家庭、学校みんなで同じ思いで9時オフをきちんと守るということをやっていかないと志布志市にもっと依存症となる子どもたちや不登校になる子どもたちを作ってしまうことになるのではという気がします。生涯学習課も一緒になって取り組んでもらいたいと思います。今せっかく志布志市は他のところと比較して暴力事件などが減ってきていますので、このまま取組を続けていただけたらと思います。

【本田市長】

協議してもらいたいと思いましたが、最近文科省の方からデータが公表されましたので、本市の状況はどうかかなと思い、昨年市内で事案もあったことから、先生方はもちろん、PTAも地域もそのことにエネルギーを注いでいて、うまく解決して正しい学校生活を送れるような状況が作られてきているのかどうかというところと極めて怪しいと。また、そのことが下の学年に伝播していないかについてもどうかと。とにかくいじめが起きたら本人も周囲もすべてエネルギーを投入して解決していかなければならない。絶対ない環境をつくる必要があります。ではどうするのか。私もコラムに書きましたが、正しく「志（こころざし）」です。志を高めることがいじめ解消になると思います。志というのは人のためにすることが志です。

学級で言えば友達のために何かしてあげようと考えながら行動することが志を高めると思っています。小学生に「志とは何ですか。」と聞いたところ、「わからない。」と答えました。その際、「お父さん、お母さん、自分の兄弟や祖父母が喜ぶことを何が出来るかと考えて行動することが志です。」と伝えました。

人や周囲を喜ばすということが志で、本市においては志を高めようという教育を声を大きくして取り組んでいらっしゃると思います。そのことについては全国でも稀だと思います。人の生き方を強制するような教育がどうかという風に言われますが、いい教育環境になってきていると思いますので、志を高める教育を行ってくださいと言いつけています。高い夢、目標としては人のために行動するということになりますが、身近で考えると友達のために何かするということがそうなんですということを伝えていただいて、いじめをなくしていってほしいと思います。特定の2, 3人の子どもによって学級運営が大変な状況になっています。これは大変です。皆さんは現場で苦勞されているから大変だと思いますが、そこが先ほども言いました学力向上に帰結すると思っています。いい形での学級運営がされていなければ、学力は向上していかないと思っていますので、皆さん、よろしくお願いします。

【和田教育長】 志を高める教育というのは、私も志布志ならではの、他のところにはない魅力的な教育だと思います。では志を高めるために何をするのかということで、一つは道徳教育があるだろうし、子どもたちにいろいろな体験をしてもらったり、読書にも力を入れてもらっています。また、4月24日の志布志の日の前後1週間はすべての学校で志布志のことを知る期間を作りましょうと取り組んでいます。とにかく志を高めようとどんな取組を行わないといけないのかを学校教育課、生涯学習課で志エッセイコンテストを実施するなど、いろいろ積み重ねてきていますので、そういう意味では、志布志の子どもたちが志布志が大好きになって、志布志に帰ってくるといった子どもたちも育てるためにこれからも積み上げていきたいと思っています。

【本田市長】 ありがとうございます。是非そのことはしっかりと成果として出るような形に取組を深めてもらいたいと思います。

【本田市長】 次の協議の説明をお願いします。

【徳田教育総務課長】 それでは、協議(3) 奨学金制度について説明します。

資料 14 ページをご覧ください。資料の 1 番は志布志市の奨学金についての事業内容です。2 番は平成 29 年度の貸付状況で、貸付人数は合計 98 人で、貸付金額の合計が 4, 4 7 0 万円です。3 番は貸与の推移についてですが、平成 28 年度に所得基準を撤廃し、大学生等については従来の月額 3 万円に月額 5 万円の枠を新たに設けて、償還期間も最長 10 年から 15 年まで拡充を図ったところ。その結果、表の 27 年度、28 年度、29 年度をご覧ください。ただ、28 年度は前年度より 19 人、29 年度は前年度より 27 人増加という風に年々増加傾向ということで活用されている状況です。

今回、特に医療、看護系についての制度ということで、調査しましたところ、大分県臼杵市に医学生などの奨学生制度がありました。臼杵市医学生奨学資金については、平成 23 年度に新設されています。これについては医療機関での人手不足があったことにより地元医師会からの要請で新設されたものです。財源については医師会から 50%、市の一般財源から 50%で運用しています。原則貸与型ですが、卒業後 18 年以内に貸与期間と同期間、市内の医療機関に勤務した場合は全額返済免除となります。23 年度以降、合計で 3 人の実績があがっているようです。同じく臼杵市では 27 年度から看護学生の奨学金も創設されています。卒業後に貸与期間と同期間、市内の医療機関に勤務した場合は返還金が免除となる制度です。27 年度以降、3 人の利用実績があがっているようです。これについては、臼杵市内の医療機関の業務に従事することを考えていることが対象です。この奨学金については、臼杵市の方では教育委員会ではなく、保健健康課の方で予算計上して奨学

金の運用をしているようです。

また、島根県邑南町では、医療、福祉従事者確保奨学金という制度を設けています。これも原則貸与型ですが、町内の医療機関、福祉施設で免許取得して活かした期間について償還免除となる制度です。これについては、選考基準で邑南町の医療福祉に携わって、やりたいことなどの小論文の提出を求めて、選考基準としているようです。これについても、教育委員会ではなく、人材確保の観点から、また定住促進の観点からも保健課の方で創設しています。他の自治体の状況は以上です。

【本田市長】 県外の資料は配布していますか。

【徳田教育総務課長】 県外の資料は配布していません。

【本田市長】 何か意見はありませんか。

【和田教育長】 県内の状況は。教育委員会が実施している以外の貸付制度がありますか。

【徳田教育総務課長】 県内の状況ですが、大崎町が産業後継者育成奨学金制度を設けています。平成 28 年度から新設されています。これも原則貸与型ですが、卒業後に大崎町内で農林業や商工業の後継者又は新規開業者として就業した場合に 5 年間返済を免除する制度です。現在のところ利用実績はないようです。

【本田市長】 金額はいくらですか。

【徳田教育総務課長】 金額は高校生が月額 1 万 5 千円、高専生が月額 2 万 5 千円、大学生等が月額 3 万円です。28 年度からの新設ですので、対象者がいないと思われます。

【松原教育委員長】 志布志市の奨学金制度は専門学生も対象ですよ。医療、

看護系に関わらず対象ですよ。

先ほど紹介された他の自治体は、例えば市立の病院があって看護学生がいないなどで何が何でも定着してもらったり、定住促進のための制度で、鹿児島では医者が離島に行くなど条件を付けているもので、大崎町も同様の奨学金制度ですよ。目的を定めてというのは産業振興などの目的を定めてというものですよ。そういう意味で考えると、志布志市の奨学金制度は看護学生等にも対応できるということですよ。特設設けるかということ、目的が別であれば、教育委員会以外で創設することになるということですよ。

【徳田教育総務課長】 おっしゃる通り志布志市の奨学金制度については、医療系、農林系、商業系と職種を問わず、就学したいということに関しての条件はなく、貸与しています。

【本田市長】 今、徳田課長が説明しましたが、その内容について調査を私からお願いしたのは、市長としてこの地域の医療環境の改善を求められています。そのため、曾於医師会又は大隅半島の全域の地域振興局中の医療部会などで意見を述べて、意見集約して要望活動を行っています。現在、鹿児島大学の方にも年に1、2回、医師派遣についての要望活動をしています。何が要望されているかということ、産婦人科と小児科の医師がこの地域にはいないということで、その専門の医師について要望しているところです。県内全域を見ても、県内で曾於地域は最も10万人当たりの医師の数が少ないという状況で、最も高齢化の進んでいる地域となっています。あと10年すると医師がいない状況になる可能性があります。そのような状況ですので、この地域の医療については、しっかりと現況を見つめて改善を図る必要があります。地域全体で要望活動を実施していますが、なかなか成果が上がらないところです。

その要望活動の際に、医師の方から「実は看護師も不足しています。」という話を聞きます。看護師が不足している原因は、卒業

後、都会に就職してしまうためだそうです。何故都会なのかというと、都会の産婦人科の病院が奨学金を出して卒業後、その病院で働くようになっているからです。ただ、地元に残りたいという学生もいるはずですので、その子どもたちについては自分の自治体で奨学制度を設置すればいいのではと考えたところです。例えば現在、高校生で月額1万5千円、大学生で月額3、5万円の奨学金制度がありますが、これにプラスして奨学金制度が出来ないか考えたためです。

医師については、さらにハードルが高いですが、ないよりも制度を設けた方が良いでしょうと考えました。1、2人でも対応してくれる学生がいれば、将来的には確保出来るのではと考えたところです。

【和田教育長】 曾於市の看護科などでは、卒業後はほとんど外に就職している状況です。

【本田市長】 地元に残りたいという学生もいるはずなので、奨学金制度を活用して、将来的には返済免除という制度を利用してもらえたらと思っています。

そのようなものを考えていますが、皆さんどうでしょうか。

【武石総務課長】 貸与型であれば、長島町のぶり奨学金があります。職種は別として一旦町外に出て、町内に帰ってくれば返済を免除するものようです。いろいろ奨学金については、各自治体が人口増の対策として実施していますが、高校、大学、専門学校の学生への貸与型はどこでもやっています。看護系については、医師は国、県で実施していますが、自治体で看護師、助産師などに特化して地元の医療機関に戻してやるという奨学金制度はないと思います。実施するとすれば良い制度だと思います。

【松原教育委員長】 この問題が大きくなると、保育士も不足しています。保育園も障害を抱えた子どもを受け入れたいが、看護師がいないという

状況です。市内の保育園の建替えも進んでいますが、人がいなくて困っている状況です。

【武石総務課長】 保育士も確かに不足していますが、特に問題になっているのは看護師、助産師はいないわけですので、子育ての包括支援センターを設立していく際には社会福祉士、助産師などが必要となります。

【本田市長】 先ほども言いましたが、私の立場として医療環境の改善を求められているため、要望活動を行っていますが、現実的に成果が上がらない状況です。そのため問題が深刻なのです。そうなる自分たちで解決するしかないということになり、どんな解決方法があるのかとなってきます。

尚志館高校の看護科がありますから、校長に定員を増員して欲しいとお願いしましたが、難しいとの回答でした。

経済的に困難な子どもたちを奨学金で全面的に支援すれば、地元に残ってくれるのではと考えたりもします。

本当に病院がなくなってしまう状況です。完全に高齢化です。そして後継者は帰って来ない状況です。これは何故かと先生に質問すると、日本の医療制度のためですと言われます。

今回は皆さんにも考えて欲しいと思い、協議の議題に提案しました。

【松原教育委員長】 志布志の児童生徒数は、合併時に一時的に減少しましたが、その後あまり減少していません。曾於市と志布志市と比較した時に曾於市よりも増えて現在小中学校ともに逆転しています。曾於市は減少していますが、志布志市は伊崎田や松山も分譲地が出来て、賑わいがあると思います。志布志市もいい話もありますと伝えたかったため、お話ししました。

【本田市長】 本日の課長会でも言いましたが、松山の泰野地区の分譲地10区画すべて完売し、次は尾野見地区の分譲を開始します。

【松原教育委員長】 教育事務所の資料を見ていて、近い将来、志布志市の方が曾於市よりも児童数が多くなるなど思っていたら、逆転しました。児童生徒数が増えているということは、元気が出ます。

【本田市長】 その他、何かありませんか。
ないようですので、これで協議を終了したいと思います。

○ 閉会（黒石総務課長補佐）

それでは、皆さん御起立ください。

これもちまして、平成 29 年度第 2 回志布志市総合教育会議を終了させていただきます。一同礼。

午後 3 時 53 分 閉会

会議録署名

志布志市長 本田 修一

教育委員長 松原 治美

教育委員 飯野 直子

教育委員 島津 陽亮

教育委員 津町 千代子

教育長 和田 幸一郎